

『保育士・幼稚園教諭になってよかった』と 感じた瞬間エピソード

目次

子どもの成長編

- 1 成長を見守ることができる嬉しさ
- 2 子どもたちの大きな1日
- 3 成長
- 4 保育教諭の魅力とは
- 5 成長のすばらしさ
- 6 子どもたちの成長の瞬間
- 7 たくさんの笑顔に囲まれて
- 8 私の保育のやりがいと楽しさ
- 9 スマイル



1 成長を見守ることができる嬉しさ (20代)

私は高校時代、漠然とした思いで保育科に進むことに決めました。しかし大学では保育を専門的に学んでいくうちに、興味が深まり保育を選んでよかったと思うようになりました。実際に保育現場で働いてみると、学校では学ぶことの出来なかった保育の大変さや楽しさ、やりがいを日々感じています。ある二つの出来事の時、特にそう感じました。

一つ目は、排尿がなかなかトイレで出来なかった子が、初めてトイレで排尿できたときでした。その子が「トイレで排尿が出来た」という経験をしてほしいと思っていたので、その瞬間を見る事が出来たときはとても嬉しく、子どもと一緒に大いに喜びました。

二つ目は、嫌なことがあると、友だちによく手が出てしまっていた子が、手を出さずぐっと我慢して、言葉で嫌な気持ちを伝えられたときです。子どもも言葉で伝えられたことが嬉しかったようで、子どもと一緒に、頑張りや喜びを共感しました。

私はこの二つの出来事の時、保育士になってよかったと強く思いました。子どもたちの姿や成長を近くで見守ることができ、できるようになったという成長の瞬間にも立ち会うことが出来るのは、とても達成感があり感動します。さらにその嬉しさを子どもや保護者、保育者同士と一緒に喜びを共感できるのは、保育士や幼稚園教諭だからこそ出来ることだと思います。実際に子どもたちと関わる中で、やりがいや楽しさをたくさん感じ、今は大学生のとき以上に、保育士になってよかったと思います。これからも子どもに寄り添いながら、近くで成長を見守っていききたいです。



2 子どもたちの大きな1日 (20代)

保育士として働き始めて半年間、たくさんの喜びや幸せを感じています。その中でも私は、子どもの成長を感じる瞬間が保育士になって良かったなと特に感じています。

現在、一歳児の担任を務めさせていただいており、子ども達の成長の目まぐるしさに驚く毎日です。具体的なエピソードとしては、3月生まれのお子さんが4月当初は、はいはいでの移動であったが、両足で立つようになり、一歩ずつ歩き始めて、あっという間にすたすたと歩くようになったことです。今では走って追いかけてっこを楽しんでいます。たった数ヶ月で子ども達の姿は大きく成長するんだ、と驚くとともに感動しました。子ども達にとって1日、1日がとても大きく、どの姿も価値のあるものであると感じた場面です。自分で歩くことが出来て、嬉しそうな子ども達が笑顔で私のもとに、手を広げながら歩いてくれた姿は忘れられません。このような子どもたちの貴重な成長の姿を、間近で感じられることは保育士としての大きなやりがいであり、とても素晴らしい仕事だと強く感じています。

また、子ども達の成長を子育てのパートナーとして保護者の方々とともに喜び合う度に、自分の描いていた保育士像に少しずつ近づいていくような感じがします。

他にも、保育園に勤務して、初めて「先生」と呼ばれた時、子ども達の元気いっぱいな笑顔を見た時や子ども達と信頼関係が築けた時など、保育士になって良かったと感じる瞬間は数え切れないほどあります。これからも保育士という仕事に誇りを持ちながら、子どもたちと笑顔いっぱい毎日過ごしていきたいと思います。



3 成長 (20代)

「先生おはよう！」園に行けば真っ先に笑顔を向けてくれる子どもたち。今日は何をして遊ぼうかな、どんなことがあるんだろう。そんな眩しすぎるほどの輝きを持った目を見るだけで朝から底知れぬ元気が湧いてくる。「先生、できた！」子どもたちは毎日、一瞬一瞬もの凄いスピードで心も体も成長していく。今までできなかったことができるようになったり、自分自身や他人のことを大切に思う気持ちが持てるようになったり。そんな瞬間を幾度となく目にすることが出来る幸せを心から感じる。

働き始めた当初は、子どもたちにとってただの“遊んでくれるお兄さん”に過ぎなかった。それがいつしか1人の“先生”として認められた。ではこれから自分は“どんな先生”になろう。成功、失敗の経験を繰り返しながら、子どもと共に大きくなっていきたい。そう心から思える保育の仕事に出会えて良かったと感じる。

4 保育教諭の魅力とは (20代)

「子どもの成長の瞬間に立ち会えること」、これが私が考える保育教諭の魅力だ。

私には忘れられない出来事がある。集団が苦手で普段と異なる環境にも敏感な男の子を担当に持った。彼は年少、年中時と運動会や発表会に参加することができなかった。年長の運動会競技では、すべてのことは難しいため、今日一つだけががんばれるところを一緒に考え、練習に取り組むようにしていた。時には参加しない時もあり、総練習の時も2つの競技に出ることが精一杯だった。

そんな状態で運動会を迎えた。私は無理せず、彼のできることだけでも取り組めたらいいなと考えていた。しかし彼は、私の思いをはるか上を超えていった。すべての競技に参加し、自分の力を発揮しながら楽しむ姿に私は心が動かされ、自然と涙が込み上げてきた。特に運動会最後の競技のリレーでは1走者として走り、次の人にバトンを渡し終えた時の表情は今でも覚えている。さまざまな感情が混ざり合った中に、運動会を全力で楽しむ彼の成長した姿を見ることができた。

この瞬間のために、私は保育教諭を続けてきたのだと彼に教えられ、今でも「子どもの成長の瞬間に立ち会えること」が私の働く活力となっている。



5 成長のすばらしさ (20代)

私が保育士として働き始めて、三年経ちます。保育の楽しさや喜びを日々感じています。その中でも、子どもたちの成長を間近で感じることができる瞬間が保育士になってよかったと感じています。

食事や排泄、遊びなど、子どもたちの日常生活に寄り添う中で、たくさんの成長を感じます。身長が伸びた、速く走れるようになったなどの、目に見えて分かりやすい成長があります。友だちのことを思いやる気持ちや自分でやってみようと自分を信じて頑張る姿など、心の成長にも出会うことができます。一日の中で子どもたちの成長は、数えきれないほどあります。一つのエピソードとしては、送迎時、保護者と離れることが辛くて泣けてしまう子が、保護者と笑顔で「バイバイタッチ」をして保育士の元に向かってきて、笑顔で「おはよう」といってくれたり、保育士の名前を呼んでくれたりする瞬間がとてうれしく思います。日々の子どもの関わりの積み重ねが、子どもの心を開いてくれたことに繋がっていると感じ、信頼関係が築けたと実感します。ズボンの脱ぎ履きができたとき、難しいパズルができたときなど、子どもたちが「できた」と思える瞬間に出る笑顔や喜びを見ることができたときにとてうれしく感じます。日常生活の中で自然と子どもたちから「楽しい」「面白い」「嬉しい」という言葉が聞こえたときや心から笑っている笑顔が見られた時にも保育士になってよかったと感じます。

子どもたちの成長を間近で見ることができ、また自分自身も成長することのできる保育士として働くことができ幸せに感じ、保育士になってよかったと思います。これからも笑顔を忘れず、子どもたちに寄り添い、一日一日を大切にしながら過ごしていきたいと思います。



6 子どもたちの成長の瞬間 (20代)

私が保育士になって良かった事は、子どもたちの成長を近くで見る事ができた事です。

私は現在、0才児の担任をしています。成長が著しく見られる年齢でもあります。入園当初は、ハイハイや高ばいをしていた子が、つかまり立ち、伝い歩きを経て自分で立ち、歩くようになりました。このような瞬間を見れたことはとても嬉しく思います。子どもたちは毎日成長して居るんだと改めて感じさせられる日々です。

保護者の方とも、保育園や家庭で出来るようになった事を伝え合い一緒に喜び合っています。

子どもたちと関わる中で上手くいかない事もありますが、先輩方にアドバイスを貰いながら、保育をしています。子どもたちと意思疎通が出来た時、安心して近づいてくれる瞬間は本当に嬉しい瞬間でもあります。

これから、子どもたちが大きくなった時に、この先生で良かったな、この先生楽しかったな、と思って貰えるように、日々子どもたちと同じ目線に立ち、子どもたちの気持ちに寄り添いながら、これからも保育をしていきたいと思っています。

7 たくさんの笑顔に囲まれて (20代)

保育教諭になってよかったと感じる瞬間は、子どもたちから元気と笑顔もらえることです。毎朝「おはよう」と元気な笑顔が見れることが一番の幸せです。私は0歳児の担任をしています。昨日までできなかったことが、今日ではできるようになったり、日々話せる言葉が増え、やりとりが楽しくなったりと間近で子どもたちの成長をたくさん感じる事ができます。子どもたちと一緒に成長を喜び合いながら笑顔に囲まれている日々は、保育教諭の特権であり私にとってのやりがいだと思います。



8 私の保育のやりがいと楽しさ (20代)

子ども達から毎日たくさんの事を学ばせてもらっています。その中で私が保育士になってよかったなと感じた瞬間は、子どもが成長していく過程を近くで感じられる事です。

去年は、2歳児のクラスの担任をさせていただきました。4月、保護者と離れる際に泣けてしまっていた子ども達でしたが、だんだん保育園や担任にも慣れ、信頼関係が出来てきました。12月の発表会では、保護者から離れてたくさんのお客さんが見ている中名前を言ったり、保育園で楽しんでいる手遊びや体操を見てもらったりしました。4月とは違う子どもの姿にとっても成長を感じました。また、普段の生活では身の回りの事を自分でやりたいという気持ちから、だんだん身の回りの事が出来るようになったり、友達とのトラブルでは成長とともに言葉で思いを言えるようになりました。成長の中で褒めたり出来た事を一緒に喜んだり、子どもの思いに共感できる事がすごくやりがいだなと改めて感じます。子ども達の初めての経験に触れられる事がすごく楽しいです。これからも、子ども達と様々な経験をしたり、思いを共感したりしながら楽しく仕事をしていこうと思います。



9 スマイル (20代)

晴れ晴れとした青空の下、運動会で「スマイル」という曲に合わせて子どもたちと踊りをしました。担当する年少クラスの子どもたちの輝く笑顔を見ながら「保育士になってよかった」と実感しました。

9月に行われる運動会に向けて、プール前の体操や普段の遊びの中に「スマイル」の踊りを取り入れていきました。踊ることが好きで先生の真似をして力いっぱい踊る子、恥ずかしそうに見ている子など、様々な思いで過ごす中、みんなと踊るのが苦手で、いつも隅で見ている子がいました。「一緒に踊ってみる？」と聞くと、「行かない。」と目を逸らしていました。その子には無理をさせず隣で踊ったり、一緒に歌ったりしていました。運動会総練習の日、年少児の踊りの順番が来ました。「一緒に行こう。」と声を掛けると、ギュッと手を握って頷き、曲が流れ始めると、口ずさみながら体を大きく動かして踊りました。踊り終わると、にこにこしながら退場し、「上手に踊ったね。」と声を掛けると満足そうな顔をしていました。他の子も回数を重ねるごとに振り付けを覚え、踊れるようになってきて、ついに本番の日。衣装を着た子どもたちを見て、その成長を感じながら一緒に入場しました。当初は見ているだけだった子も力いっぱい踊り、スマイルが溢れていました。

子どもたちの生活は、楽しいことだけでなく苦手なことを克服したり、自分の心と向き合う時もあります。そんな時、支えられる存在であることが嬉しく思います。時には一緒に悩んだり、悲しくなることもありながらも、共に成長していく事で楽しさと充実感でいっぱいになります。このように思う時、あらためて保育士になって良かったなと思います。これからも子どもたちの笑顔を守っていきたいと思います。

